



BEAR'S LETTER

Winter Issue



新 年明けましておめでとうございます！

皆様2025年はどんな年だったでしょうか。のぼりべつクマ牧場では様々な出来事があり、色々な意味で成長の年となりました！成長といえば、去年生まれの子グマ達も立派に大きくなりました。

昨年12月29日に1年間過ごした子グマ牧場を卒業し、成獣達が暮らすバックヤード獣舎にお引越ししました。子グマ牧場を卒業したことでお客様には寂しい思いをさせてしまうかもしだれませんが、今後子グマ達に会えるイベントも実施していく予定なのでお楽しみに！



昨日 年7月14日から、エゾリスの「オベリ」と「エゾマル」の同居を開始しました。同居練習自体は6月13日から実施しており、1ヶ月の練習を経て一緒に生活できるようになりました。オス同士なのでケンカが起きてしまわないかドキドキしながら観察していましたが、餌を食べながら追いかけっこしたり、お互いの匂いを嗅ぎ合ったり、相性が良い様子を見たときはホッと胸をなでおろしました。

エゾリスたちが活発に動き回っているのは午前10時～正午なので時間を見計らってリストの杜にお越しください！



今

年七高齢個体の冬眠

(疑似冬眠)を実施しています。

12月中旬から本格的な冬眠を行な、ツリや消防ホースなどの巣材をヒグマ達に提供しました。巣材を広げると各々前足でいじったり、粉々に噛み碎いてつかつ力に整えたりする行動が見られ、しばしばすねと固まって眠る様子が観察できました。毎年恒例の冬支度が始まると「ああ、今年も冬が始まったなあ」としみじみ思います。

若いヒグマは冬場でも活発に雪の上を走り回り遊ぶ個体が多いですが、高齢個体になると活動量が低下するので冬眠を行っています。野生個体と違い、春まで起きない説ではなく時折水を飲みに起きてきたりすることもあります。時々SNSでも冬眠中の様子をお届けしますのでお楽しみに!~

のぼクマ劇場

なる作



巣材を整える様子=12月15日



ワラの上で固まって眠る様子=12月15日

高橋獣医が語ります!

のぼりべつクマ牧場で獣医として働くためには様々な感覚を鍛えなければなりません。皆様にもクマ牧場で働く獣医が何を感じ取っているのかお伝えします。

まず一番重要なのは視覚です。ヒグマ達に怪我がないか、変な歩き方をしていないか、元気そうに動いているか、餌は食べられているか、しつかり見ます。また、異常な糞か無いか、出血の跡が無いか、獣舎内もよく見ています。

そして意外に役立つのは嗅覚と聴覚です。例えば、傷口から膿の匂いがしていないか、異常な便から血の匂いがしていなかなどを確認します。嗅覚を鍛えれば田で見えない異常を察知することもできるようになります。また、どこかでうなり声がしていいないか、荒い呼吸の音がしないかなども聞き取ることが出来れば、田で見るより早く異常に気づけます。

ここまでは紹介した感覚を利用して異常を見つけた場合には、麻酔をかけて検査をすることもあります。その時は触覚も利用しています。血管を探したり、太り具合を確かめたり、腫れ物がないかを探したりと全身をくまなく触っています。また、五感と言いましたが、実は味覚は使用したこと�이ありません。先輩獣医さんの話だと、恋の季節のオスヒグマは背中から甘い匂いがするんだとか。メスの尿も甘い匂いがするんだとか。本当に甘いか確かめる勇気は私にはありません。

わかった人が来ないものでどうか。お腹が痛いとか、右足が痛いとか、なんか急いでるとか、そのくらいでも聞き取れたら、もっと早く治してあげられます。そんな日が来るまでは五感全部でヒグマたちの異常を感じじつてあげようと思います。

編集担当の感想

皆様お久しぶりです!園内情報誌編集担当飼育員Iです。

以前発行していた「飼育員は見たべあ」の100号を発行してからもう3か月が経過し、時の速さを感じます。

また、今回から年4回の発行になり心機一転という事で、ガラッとタイトルを変えてみました。イメージはおしゃれなカエルに置いたてあるフリー・ペーパーです。気に入っていたけどするとすぐ嬉しいです。そして、人気だった4コマ漫画も復活しました!色々と盛りだくさんな「Bear Letter」を引き続きよろしくお願いします!



麻酔をかけて体の大きさを測定=5月

